



「スルッとKANSAIバスまつり」

月刊

あじenda

2008年

9月



京のアジェンダ21フォーラム事務局

〒612-0031

京都市伏見区深草池ノ内町13

京エコロジーセンター2F 活動支援室内

TEL: 075-647-3535

FAX: 075-647-3536

E-mail: ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

開室時間: 10時～18時45分 (木・日休室)

アクセス: 京阪電車「藤森」西へ徒歩5分

地下鉄・近鉄「竹田」東へ徒歩13分

市バス・京阪バス「青少年科学センター前」南へすぐ

みやこ
京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信

月刊あじendaは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です

京のアジェンダ
21フォーラム



8月1日 フォーラム事務局長交代 新体制の事務局一同、頑張ってます！

日ごろは京のアジェンダ21フォーラムの運営にご支援を賜りありがとうございます。

このたび、8月1日より京のアジェンダ21フォーラム事務局長に就任いたしました。

地球温暖化が京都市周辺ではもちろんのこと、世界各地で目に見える影響を現してきた現在、京都議定書の誕生の地としての「京都」における地球温暖化防止活動は各方面から注目を集めることとなり、ますます重要となっております。

この京都で1998年11月23日に誕生した「京のアジェンダ21フォーラム」は『京のアジェンダ21』を推進する組織であり、全国に先駆けて市民と事業者および行政が自主的に参加する組織として活動を進めてきました。その成果として中小事業者向けの環境マネジメントシステム「KES・環境マネジメントシステム・スタンダード」の創設



【写真】事務局スタッフ

左から長谷川吉典/小山直美/竹村光世/事務局長 西本雅則

京のアジェンダ21フォーラム事務局長 にしもと まさのり 西本雅則

や、公共交通機関をもっと楽しく利用していただくためのインセンティブ「バスと電車でecoグルメ!」、また、自然エネルギーを事業活動のなかに身近に活用してもらう「京グリーン電力制度」の運用など多くの取組みを実施してきました。このような「環境と共生する持続型社会」の実現にむけての活動実績のある、京のアジェンダ21フォーラムの事業活動に携わることが出来ることを誠に光栄に思うとともに、責任の重さを感じております。

また、京都市においても、国の「環境モデル都市」への応募など、積極的な地球温暖化対策の政策を実施しており、そのなかでもフォーラムは重要な推進組織として位置づけられています。これからも、生態系保全と経済活動の共存を進めるローカルアジェンダ21の精神に則った「環境まちづくり」を柱とした事業を計画し、多くの方々にご参加いただけるフォーラム運営を目指して、事務局スタッフ一同日々の業務を進めて参ります。

新体制となりました京のアジェンダ21フォーラムへ、これまで以上に会員の皆様のご支援、ご参加を頂きます様に、心からお願い申し上げます。

略歴：京都の地場産業である和装繊維関係営業職を経て、機械金属加工メーカーに勤務しKES認証制度の試行に関わったことを契機に環境保全活動に参加。以後、さまざまな分野の環境NPOの運営に参画するとともに、前職の京エコロジーセンター事業課担当課長職を経て2008年8月より現職に就任。

1965年 京都市生まれ。

【お知らせ】フォーラムの銀行口座について【銀行口座名義変更】

このたび、都合により、当フォーラムの銀行口座の名義を変更しました。

銀行名・支店名や種別・口座番号の変更はありませんが、名義（漢字およびカナ）が変わりましたので、年会費を納入いただく際には、お手数ですが口座名義が下記の通りであることを今一度ご確認ください。

【銀行口座】三菱東京UFJ銀行 京都支店 普通預金 5468383

京のアジェンダ21フォーラム 代表 内藤正明

(ミヤコノアジェンダ21フォーラム ダイイショウ ナイトウマサアキ)

8月5日 京都環境コミュニティ活動 (KESC) プロジェクト 事業者募集説明会を開催

8月5日、京エコロジーセンターにて、京都環境コミュニティ活動 (KESC) プロジェクト事業者募集説明会を開催しました。説明会には、KES・環境マネジメントシステム・スタンダードやISO14000を取得されている事業者の担当者や、NPOのスタッフなど24名の参加をいただきました。

まず最初に、プロジェクトリーダーの長屋博久さん (有限会社村田堂 取締役) とフォーラムの企業活動ワーキンググループメンバーの津村昭夫さん (特定非営利活動法人KES環境機構 専務理事) が、京都環境コミュニティ活動 (KESC) プロジェクト (以下、KESC) の意義と概要について説明しました。

◆プロジェクトリーダー 長屋博久さん

KESCは、事業者、学校、住民などの各主体が協力して、京都のそれぞれの地域において、地域コミュニティを活用して環境問題を解決する仕組みづくりを目指しています。

KESCは、参加した事業者にとっては、地域における自社の認知度がアップし、また、社員の環境問題への意識が向上する効果があります。また、KESC活動を行っていること自体をKESやISO14000などの環境マネジメントシステムでプラスの環境影響として評価することができます。一方、KESCに参加した学校にとっては、児童・生徒への生きた環境教育、職業教育の機会を得ることになります。さらに、地域にとっては、KESCは、安全・安心で快適な地域づくりにつながります。

◆企業活動ワーキンググループメンバー 津村昭夫さん

地球環境問題を考えるためのキーワードに“Think Globally, Act Locally. (地球規模で考え、地域で行動を)”というものがあります。KESCは、地球温暖化対策としては、民生・家庭部門や民生・業務部門での有効な取組となるものです。また、KESCは地産地消の推進や、事業者にとっての将来的な人材の確保にもつながる可能性をもっています。

その後、2007年度にKESCにご参加くださった事業者が各チームの活動報告を行い、事業者に参加を呼びかけました。

◆2007年度の参加事業者から

① 伏見区・自然エネルギー環境学習チーム (生田産機工業株式会社 渡辺千裕さん)

KESCは、苦勞することもあった反面、大変楽しく、達成感を得ることができました。マスコミにも度々活動が掲載されました。KESCに参加することで、企業の社員の能力も開花します。ほかの事業者やNPO、地元の学校との得がたいネットワークができたことも良かった点のひとつです。

② 中京区・交通環境学習チーム

(株式会社エコロ21 専務取締役 山沢邦良さん)

KESCでは、いくつかの事業者が集まって、話し合っ、どのような内容の活動を行うか決めていきます。昨年度は環境に配慮した自動車の使い方を児童に紹介し、また考えてもらう内容でしたが、今年、新たな事業者の方が参加されたなら、その特徴を生かして、また新しいプログラムがづくりだされるでしょう。

③ 伏見区・市民共同おひさま発電所づくりチーム

(公栄運輸株式会社 代表取締役社長 山本龍太郎さん)

わがチームがKESCで取り組んでいる保育園での「おひさま発電所」づくりは、子どもたちが将来に渡り環境に関心を持ち続けていく足がかりになります。現在は、保育園で園児に見せるためのオリジナルの環境学習紙芝居を制作中です。久しぶりに絵筆を持つのも楽しいものです。

④ 水源の森づくりチーム

(日本電気化学株式会社 品質保証環境管理部部長 田島 宏さん)

わたしたちは昨年度、京都市域の自然林や、手入れされずに荒廃している人工林を森の専門家のガイドのもとで観察し、京都の森林の危機的な状況を知りました。その上で、自分たちがどのような森づくりを行っていきたいかの計画作りを行いました。今年は実際に森林整備活動を始めます。

参加者は熱心に説明に聴き入っていました。その後の意見交換会では、「素晴らしい活動だと思うが、社内でほかの社員を説得するのが大変だ」、「ほかの地域でもこのような活動を実施していきたい (京都市外からの参加者)」などといった意見が出され、参加者同士でアドバイスを行う場面もありました。

2008年度は、各地域で事業者、学校、住民によるチームをつくり、チームの中で活動内容を決定し、どしどし活動を推進していきたいと考えています。

◆参加者募集中！

現在、KESCでは各チームへの参加事業者を募集しています。経験はなくても大丈夫です。KESCに関心をお持ちの事業者の方は、まずはフォーラム事務所までお気軽にお問合せください。



【写真】
説明会のようす

家庭の省エネ相談所 — 1家庭4%のCO₂削減効果 — 今年は25箇所で開催、参加者1000名が目標です！

フォーラムでは、2006年度から、毎年2月の「脱温暖化行動キャンペーン」の一環で、他団体と連携して「家庭の省エネ相談所」を開設してきました。「家庭の省エネ相談所」とは、市民の皆さんに、日々の暮らしに関するアンケートに記入してもらい、コンピューターで診断して「エコライフ診断書」を発行し、それをもとに、省エネの知識のある「省エネ診断アドバイザー」が、各家庭に合った省エネのアドバイスをを行うというものです。

■アドバイスで平均4%の省エネ効果

2007年度には「家庭の省エネ相談所」を京都市内で計22回開設し、929名の市民に相談を受けていただきましたが、このときに、フォーラムは京都府地球温暖化防止活動推進センターと共同で、省エネ相談でアドバイスを受けた市民が、その後どれだけ実際の家庭の省エネに取り組んだかについての効果測定を行いました。その結果、平均して、約4%のCO₂削減効果があったことが分かりました。

この結果から、現在、「家庭の省エネ相談所」は、民生・家庭部門での地球温暖化対策のひとつとして期待されています。

■大幅な拡大に向けてプロジェクト推進中

フォーラムでは、2010年には、京都市内のどこかで週に1回は「家庭の省エネ相談所」が開設されるようになることを目指し、プロジェクトを推進しています。

今年度は、

① そのための担い手づくり

(目標：「省エネ診断アドバイザー」30名新規養成)

② 試行実施

(目標：年間25回開催、参加者数1000名)

の2項目を行う予定です。

一般家庭から1年間に排出されるCO₂は約5,300kgなので、もし1,000人の市民に参加してもらえたとすると、約200 t (5,300kg-CO₂/家庭×4%×1,000人=約200 t) のCO₂削減効果が見込めます。

■開催案内にご注目を

— アドバイザー養成研修会/家庭の省エネ相談 —

プロジェクトでは、11月頃に「家庭の省エネ診断アドバイザー」養成研修会を開催するとともに、順次、市内の区役所・支所、商業施設、イベント会場等で「家庭の省エネ相談所」を開設する予定です。これらの予定は『月刊あじえんだ』やフォーラムのWebサイト等でお

知らせします。「自分も省エネ診断アドバイザーになって活躍してみたい」あるいは「自分も省エネ診断を受けたい」と思われる方は、ぜひご参加ください。

■本年度すでに開設した「家庭の省エネ相談所」の様子

2008年度にはすでに、下記の「家庭の省エネ相談所」を開設しています。これらはいずれも「省エネ普及ネット・京都」の協力をいただいで開設しました。

① 6月27日 右京区役所環境月間

会場：サンサ右京

参加者：56名



今年オープンしたばかりの「サンサ右京」。大変綺麗な建物でした。

② 8月2日 第2回本願寺門前町納涼フェスタ

会場：本願寺

参加者：37名



「納涼フェスタ」とは名ばかりで、とても暑い日中に開催。かき氷もすぐに溶けてしまいました。

③ 8月2日 第35回京セラ夏祭り

会場：京都府総合見本市会館 (パルスプラザ)

参加者：34名



毎年開催され、地域に根付いたイベント。今年はおおよそ4千人の来場がありました。

事務局動静 8月 ～事務局スタッフの動きを報告します～

1日(金) 西本事務局長就任
京都府アクションプラン
検討会議

2日(土) 本願寺納涼・家庭の省エネ相談所
京セラ夏祭り・家庭の省エネ相談所

5日(火) KESC事業者説明会

8日(金) 京都府地球温暖化防止活動推進センター
運営会議

19日(火) えこまつりWG運営会議

20日(水) 京都市地球温暖化対策条例評価検討委員会

22日(金) 京都GPN 5周年記念事業実行委員会

25日(月) 自然エネルギーWG運営会議

27日(水) 京都府地球温暖化対策プラン検討会議

29日(金) 京都GPN 幹事会





★連載★ 京の交通交流ひろば出張所 第5回 考えてみましょう「歩くまち・京都」は どんなまち？

事務局コーディネーターの長谷川吉典です。連載「京の交通交流ひろば出張所」第4回をお届けします。「京の交通交流ひろば」は、“環境にやさしい交通体系の創出”を目指して活動している交通WGのウェブサイト※で、環境を主な視点にしながら、京都の交通に関する様々な情報を紹介しています。本連載では、その中から、広くフォーラム会員の皆様に興味深く見ていただけるようなトピックを毎月紹介していきたいと思います。 ※<http://traffic.ifdef.jp/>

●「歩くまち・京都」を目指す京都市

京都市の交通政策が、いわゆるクルマ社会から、徒歩と公共交通機関を中心とした交通体系の実現へと大きく方向転換したのは、2003年の『「歩くまち・京都」交通まちづくりプラン』（京都市 TDM 施策総合計画）の策定からです。

2006年には、歴史的都心地区における「歩いて楽しいまちなか戦略」がスタートし、フォーラムも2007年秋の社会実験の臨時駐輪場運営を担当しました。

さらに、京都市では、来年（2009年）の夏を目途に新たな交通政策マスタープラン『「歩くまち・京都」総合交通戦略』を策定するため、今年、『「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会』を設置しました。

●「歩くまち」ってどんなまち？

さて、ここでいう「歩くまち」とは、どのようなまちなのでしょう。京都市は『「歩くまち・京都」総合交通戦略』の策定発表において、「人が主役の魅力あるまちづくり」を強力に推進する、としています。その具体的な姿は、8月に発足した検討部会で今後、健康／環境／公共交通／子育て・教育／コミュニティ／景観／観光／経済など幅広い観点から検討と提言の取りまとめが進められるようです。

ここでは、交通（移動）の目的別に、ちょっと整理してみましょう。以下を参考に、皆様も「歩くまち」の具体的なイメージを頭の中に描いてみてください。

●通勤・通学は？

通勤交通は、自宅と勤務先の間の交通です。通勤の交通手段は、自宅と勤務先の位置関係や、自動車通勤が許されるかどうかなどの条件を考慮して選ばれています。

「歩くまち」の実現としては、自家用自動車は原則として使わないようにし、徒歩や公共交通機関、あるいは自転車で移動することが望ましいといえます。でも、徒歩で通勤する人を大幅に増やそうとしても、職場が常に自宅のすぐ近くにあるように勤務先を変更する、といったことは、施策として現実的とはいえません。与件としての職場と自宅の位置関係があった上で、交通手段を考えるよりないでしょう。

高校や大学、専門学校等の通学交通も、通勤と同じよ

うな位置関係の制約があります。通う学校が、必ずしも自宅から近いことだけでは決まらない、ということです。

●業務交通は？

事業所などの業務で移動する場合、自動車で（量の多い）荷物を運ぶ必要があれば、自動車を使うよりなさそうです。そうでない業務での移動では、徒歩や公共交通機関で移動するのが望ましいといえるでしょう。

●日常の買い物の交通は？

皆様もご家庭の暮らしの中で外出する機会を思い浮かべてください。生鮮食料品などの買い物で外出する回数は、通勤・通学に次いで多いくらいではないでしょうか。

筆者は、ここが「歩くまち・京都」実現のポイントになると考えています。市街地にお住まいの皆様が、遠くへ出かけなくても自宅から歩いていける範囲で日常の買い物の用が足る、そういうまちは、実現できるのではないのでしょうか。市内には、京都商店連盟に加盟している商店街だけで87の商店街があります。交通政策とは関係無さそうに見えるかも知れませんが、地域の商店街を周辺地域の人たちから愛されるかたちで活性化させることが「歩くまち・京都」の実現にあたって、最も大きな効果を及ぼす都市政策（まちづくり）になるでしょう。

●自転車はどれくらい使える？

自転車は、高い移動性と排気ガスを出さない環境適合性を兼ね備えた優れた特徴を持つ交通手段ですが、筆者は、自転車に都市内の移動手段の何割かを占めるほどの大きな役割を持たせることは難しいと感じています。

普段、自転車に乗っている人たちは、雨の日には、外出を取りやめない限り別の交通手段に移ってきます。雨の日には、バスや電車や普段よりも多少混む程度で済むぐらいまでが、都市内交通として自転車を活用できる限度になるのではないのでしょうか。

●いっしょに考えてみましょう「歩くまち・京都」を

京都市の「歩くまち・京都」が、あるいは『京のアジェンダ 21』が重点取組にあげる「環境にやさしい交通体系の創出」は具体的にはどのような姿になるのでしょうか。交通WGの場などを通じて、皆様がいっしょに考えて行きたいと思います。



事務局短信 フォーラム設立から今年で10年。次の10年が人にも動植物にとっても良い時代になる素敵な活動をしたいですね。(西本雅則)／フォーラム設立記念日の11月23日近辺で10周年記念イベントを企画中です。フォーラム会員が一人丸となって取り組みそうなことを生み出す場にしたいと思います。会員の皆さま、ぜひご参加ください！(竹村光世)／新事務局長を迎え、滞りがちだった私の仕事も、何とか片付き始めました。秋から各事業が本番を迎えるので、ご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。(小山直美)／新体制で事務局長が事務所に常駐するようになり、それで大きく変わったのが事務所の整理整頓です。8月中旬の大掃除で生まれ変わった事務局が発揮するパフォーマンスにご期待ください。(長谷川吉典)